

横浜の環境

横浜市環境管理計画年次報告書 平成20年版 概要版



かけがえのない環境を未来へ

環境行動都市
横浜市

横浜市環境管理計画の主な横浜市環境

横浜市の環境対策

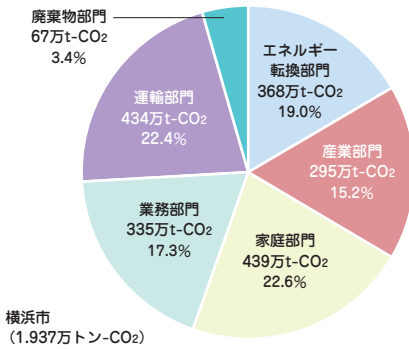
地球環境

地球温暖化対策の推進

<目標>

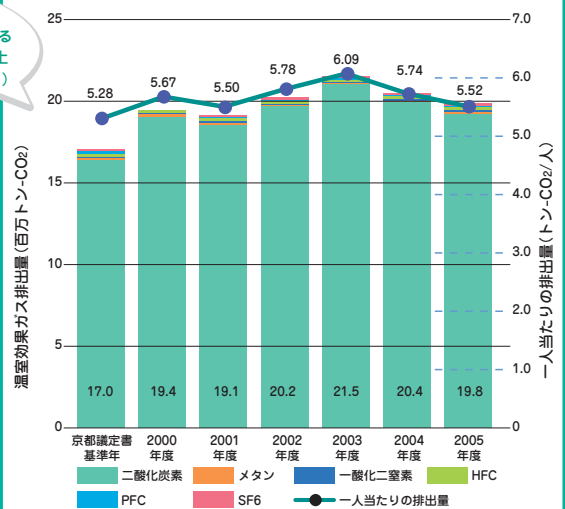
- エネルギーの合理的、効率的利用がはかられ、省エネルギー型のライフスタイルが実践されている。
- 新エネルギーの導入が推進されている。

横浜市の二酸化炭素排出構成 (平成17年度)



平成22(2010)年度の一人当たりの温室効果ガス排出量が、基準年度である平成2(1990)年度の排出量比で6%以上削減されている(目標:4.96 t-CO₂/人)

横浜市の温室効果ガス排出量の推移



自然環境

緑と水にふれあえる街づくりの推進

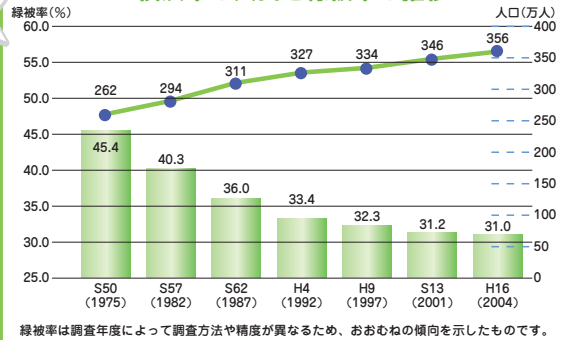
<目標>

- 現在の緑の総量を確保する。
- 地下水のかん養が行われ、川や水路に豊かな水量が確保されている。
- うるおいとふれあいのある水辺空間の整備が進められている。

水緑率35% (緑被率31%)がさらに向上している(※)

※平成18年に「横浜市緑の基本計画」「横浜市水環境計画」「水環境マスタープラン」を統合し、「横浜市水と緑の基本計画」を策定しました。この「横浜市水と緑の基本計画」では、緑被率に水面や緑に囲まれたグラウンドなどの面積率を加えた、水・緑環境の総量を示す指標として「水緑率」を使用しています。

横浜市の人口と緑被率の推移



緑被率は調査年度によって調査方法や精度が異なるため、おおむねの傾向を示したものです。

生物生息空間の保全・創造

<目標>

- まとまりとつながりのある緑地や水辺地が確保され、身近な動植物とふれあえる環境づくりが進められている。

推進

都市環境

少負荷型都市づくりの推進

<目標>

- 環境への負荷が低減された都市の形成や都市交通体系、港湾環境の整備が進められている。

推進

良好な都市景観の保全・創造

<目標>

- 美しい景観と歴史が息づく、文化の香り高い快適な街が形成されている。

推進

環境意識の向上と環境教育の推進

環境教育及び環境学習の促進

<目標>

- 環境教育のより一層の充実が図られるとともに、環境教育、環境学習が全市的な規模で展開されている。

推進

市民・事業者の環境活動の促進

<目標>

- より多くの市民が環境への関心を持ち、様々な環境保全活動が行われている。
- より多くの事業者が環境に配慮した事業活動を営み、地域での環境保全活動に関する社会貢献活動が行われている。

推進

市役所の環境保全に向けた自主的な取組の推進

<目標>

- 市及び市の関係機関全体で環境保全への取り組みが実施されている。

推進

国際分野における国際的連携の推進

<目標>

- 市・市民・事業者がそれぞれの立場から、環境分野における国際的な情報交換・交流に参加している。

推進

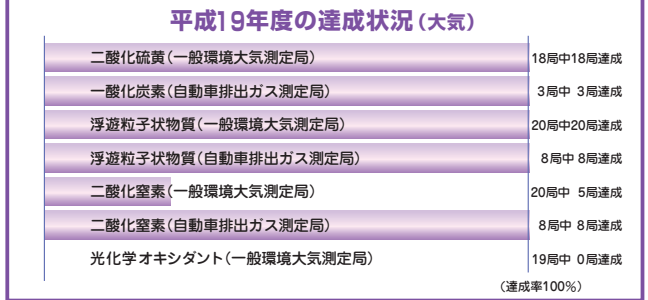
目標と平成19年度達成状況

生活環境

公害(生活環境)対策の推進

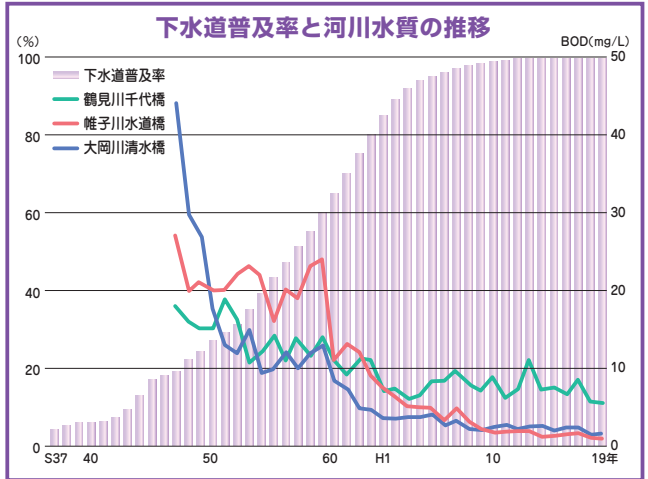
大気環境の保全

- <目標>
- 市民が清浄な大気の中で、健康で快適に暮らしている。
- <目標達成のための主な指標>
- ・「大気汚染に係る環境基準について」
 - ・「ダイオキシン類による大気汚染に係る環境基準について」
 - ・「有害大気汚染物質(ベンゼン等)に係る環境基準」(項目によっては別途指標を設定)
 - ・悪臭 市民が日常生活において不快を感じない。



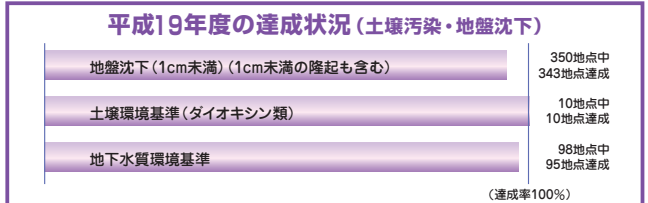
水環境の保全

- <目標>
- 魚や様々な生き物が棲める川や海で、釣りや水遊び、水辺の散歩等市民がふれて楽しんでいる。
- <目標達成のための主な指標>
- ・BOD(河川)、COD(海域)について水域別に指標値を設定。
 - ・ダイオキシン類(水底の底質) 150pg-TEQ/g以下
 - ・その他の項目 横浜市水と緑の基本計画による。



土壌汚染・地盤沈下対策の推進

- <目標>
- 地盤沈下や土壌・地下水汚染がなく、きれいなわき水が見られるなど、安定した地盤環境のもとで暮らしている。
- <目標達成のための主な指標>
- ・地下水の過剰な採取などによる地盤沈下を起こさない。
 - ・「土壌の汚染に係る環境基準」等の環境基準を満足する。



騒音・振動対策の推進

- <目標>
- 市民が、振動による不快感がなく、静かな環境の中で快適に過ごしている。

推進

有害化学物質対策の推進

- <目標>
- 有害化学物質による環境汚染が未然に防止されている。

推進

資源循環型まちづくりの形成

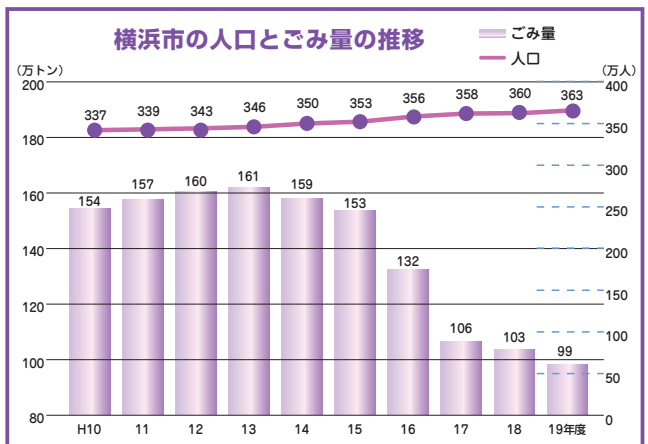
一般廃棄物の発生抑制、減量化・資源化、適正処理の推進

- <目標>
- ごみの減量化・資源化を主眼に置いた処理システムが実現されている。
 - 市民の日常生活の中でごみの減量化・資源化が実践できている。
 - 省資源・循環型の企業行動が定着している。
- <目標達成のための主な指標>
- ・平成22(2010)年度におけるごみ排出量を、平成13(2001)年度実績に対し30%削減する。

産業廃棄物の発生抑制、減量化・資源化、適正処理の推進

- <目標>
- 適正処理が確保され、資源化、減量化の促進により処分量が極力抑制されている。
- <目標達成のための主な指標>
- ・最終的に処分される量を、現状の処理体制の維持を前提として予測した141万トンに対し、その23%を削減した109万トンとする。

平成18年度最終的に処分される量: 95万トン(発生量に対する割合8.1%)



※横浜G30プランの目標である「平成22年度のごみ量を平成13年度実績に対し30%削減」を5年前倒して平成17年度に達成することができました。そこで、環境行動都市の実現に向けた歩みをさらに一歩進めるため、平成18年度に策定した横浜市中期計画では、「平成22年度におけるごみ量目標を104万トン(35%削減)」というさらに高い目標に挑戦することとしました。

横浜市環境管理計画の計画期間は平成22年度までとなっており、施策ごとに目指すべき目標として「横浜市環境目標」を掲げています。また、達成状況をはかるために、目標達成のための指標を定めています。(詳細については「横浜の環境」の本編に掲載しています。)